

## 【オピニオン】 ★特区発の新型コロナ対策二枚の切り札 神奈川県知事・黒岩祐治

20/03/19 08:00 NG36

新型コロナウイルス感染問題は終息のめどが立たない状況が続いていますが、ここに来て、神奈川県がこれまで京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区内で開発を振興してきた革新的医薬品が一気に日の目を浴びることになっています。

県が抗インフルエンザ薬として開発や海外展開を支援してきた富士フィルムグループのファビピラビル、商標名アビガンです。平成26（2014）年3月、国から医薬品として承認を受けていますが、将来的に新型インフルエンザがまん延して既存の薬が効かない状況になった時の救世主として、あえて市場には出さず、国が200万人分を目標に備蓄しているという特別な薬です。

今回の新型コロナウイルス感染に関して、中国において臨床試験が行われ、H1Vの治療薬との比較試験で明らかに優位かつ早期の改善効果が得られたとの情報が飛び込んできました。そこで、県は国に対して、効果的な治療法がなく多くの方が苦しんでいることから、人道的見地からの患者へのアビガン投与を認容することや、速やかにアビガンの治験・臨床研究を開始し、迅速な承認に向けた取り組みを進めることなどを要望しました。加藤勝信厚生労働大臣は直ちに、国内医療機関での「観察研究」を開始するなど、具体的な作業に入ってくれました。

もう一つは、神奈川県衛生研究所と理化学研究所が開発したスマートアンプ法を利用した新型コロナウイルスの迅速検出法です。これまでのPCR法では検出までに2時間ほどかかっていましたが、それが10分から30分ほどでできることとなります。平成28（2016）年度から県は両研究所の外来感染症の防疫に資する技術開発研究を支援してきました。その中で、スマートアンプ法を利用して、デングウイルス、ジカウイルス等感染症に対する迅速検出法の開発にも取り組んできました。

今回の事態を受けて、それを新型コロナウイルス検出に使えるようにできないものかと強く要請したところ、県衛生研究所が新型コロナウイルスの3株をダイヤモンド・プリンセス号の乗船者の検体より分離することに成功し、それをを用いることで開発に成功しました。よくぞ、この短い時間で開発にまでこぎつけたものだと私も驚嘆しましたが、研究者たちの開発にかける情熱はたいへんなものだったと聞いています。早速、検出試薬に関する実証研究を、関係行政機関、研究機関、大学および医療機関等と連携して開始することになります。

そもそも陽性でも無症状の人がいるという厄介なウイルスですから、実際に感染している人の数は現状では正確に把握できていないというのが、実のところでしょう。迅速検出が可能になれば、今よりはるかに有効な対策を打てるようになるはずです。

横浜市、川崎市とともに平成23（2011）年に勝ち取った特区で、これまで県の看板政策である未病改善とともに最先端医療・最新技術を支える拠点としての取り組みを進めてきました。国際的ネットワークは圧倒的に進んでいますが、具体的な成果が見えにくいなどご批判をいただくこともありました。それが、国難とも言うべき新型コロナウイルス感染問題で、日本のみならず世界中が危機にひんしているこの時に、立て続けに二枚の切り札を切ることができたことは感無量の思いです。今後、本当の成果につながることを祈るような気持ちです。（了）

（2020年3月19日）

黒岩祐治（くろいわ・ゆうじ）氏のプロフィール

1954年神戸市出身。早稲田大学政治経済学部卒業後、80年フジテレビ入社。「FNNスーパータイム」や「報道2001」でキャスターを務める。97年よりワシントン駐在。99年「（新）報道2001」キャスターに復帰。2009年に同社を退社し、国際医療福祉大学大学院教授に着任する。11年4月神奈川県知事に初当選し、現在3期目。

※本印刷物は時事通信社 UAMPサービスから印刷されました。

Copyright JUI PRESS Ltd. All Rights Reserved.



神奈川県知事・黒岩祐治